

はねっと 9

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



今、私にできること

方法を模索しながら、 まちの魅力を発信しつづける

動画で商店街と視聴者をつなぐ

コンビニや大手スーパーが身近になった今、それぞれに特色のある専門店が並ぶ商店街には、目的なく足を運ぶことが少なくなりました。仙台市若林区荒町で江戸時代から続く、荒町商店街も例外ではありません。2019年2月、荒町のファンを作ることを中心に、市民有志6人で「荒町エリア発信隊」を発足。発信隊の立ち上げメンバーで事務局を務める笠間順子かさま じゅんこさんは、「まちの情報発信を切り口に荒町を盛り上げたい」と話します。まずは、荒町商店街の“人”に焦点を当てた街歩きマップ「荒町さんぽ」を発行。取材で商店街の店主たちと何度も顔を合わせ、信頼関係を築きました。活動2年目は、動画プロジェクトを新たにスタートさせました。プロジェクトでは、6月から8月にかけて、地域の情報発信に興味がある人に向け講座を開催。荒町エリアを題材に企画から撮影、動画編集まで学びました。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、交流や会議をオンラインで行ったり、それを動画で配信したりする人が増え始めたタイミングでもあり、講座はすぐに満席に。受講生たちが制作した動画はYouTubeで公開中です。



▲講座では3人1組でチームをつくり、企画、撮影、編集と役割分担します。撮影は全てスマートフォン。講師が後方からアドバイスしています。

商店街に行きたくなる動画をつくる

発信隊で、動画プロジェクトのコーディネーター岩村和哉いわむら かずやさん



▲菓子店の店主にお話を伺いながら撮影する講座受講生。他にも、呉服店やフットサロンなどの撮影にも挑みました。



受講生たちは、5つの店で、それぞれの動画を作成しました。▶

は、「商店街の魅力は“人”です。動画はお店の場所やメニューといった情報だけではなく、それぞれの店の特色や店主の人物、仕事への情熱を短い時間の中でも伝えることができる。商店街の日常を垣間見てもらい、興味を持ってもらえれば、直接店主たちに会いに足を運んでもらえるのでは」と動画の必要性を語ります。また、動画に登場する店主たちも作り手の一員として、商店街において動画をどのように活用するかを共に考えてきました。講座では、どんな動画にすれば視聴者に楽しんでもらえるのかアイデアを出し、共に撮影に汗しました。

人と人の出会いのきっかけをつくる

講座修了後、荒町エリアで活動継続を希望する人たちを中心に、発信隊の「動画制作チーム」が立ち上がりました。講座を通じ、商店街の人たちと出会ったことで、新たなつながりが生まれました。発信隊も今では28人に。岩村さんは、「動画をきっかけに、さらに多くの人が荒町を訪れ、人と人が出会うきっかけをつくってほしい」と、決意を新たにします。

連絡先情報

●荒町エリア
発信隊

FBIは
こちら▶



YouTube
チャンネル
はこちら▶





今、私にできること

「このまちの演劇を楽しんで！」

仙台のカフェで、居酒屋で、オンラインで続けた上演

「せんだい仙臺まちなかシアター」は、在仙の俳優が仙台市内の飲食店で1時間程度の朗読劇を月に数回上演する企画です。演劇をよく知らない人や、仕事が忙しい人でも、店の料理や雰囲気と共に観劇できます。「仙台をもっと気軽に演劇を楽しめるまちにしたい」と、舞台企画などを手掛けるYONEZAWA GYU OFFICEが飲食店と企画し、上演を続けています。2020年5月1日スタートを予定し準備を進めていたこの企画ですが、コロナ禍により前半9公演の中止を余儀なくされ、開演の見通しが立たなくなった経緯があります。その頃、企画に協力していた俳優たちは仕事が激減し、飲食店も営業自粛や客足減少により厳しい状況に。苦労の末立ち上げた企画を絶やしたくない思いと、危機にある俳優や飲食店を支えたい思いから、予定していた演目を動画配信する企画「仙臺まちなかシアターINおうちdeシアター」が生まれました。資金はクラウドファンディングで募



り、飲食店を有料で借りて撮影。仙台で活躍する撮影や音響のプロが協力を申し出たことで完成した、映像ならではの作品を配信し続けました。その後自粛が少しずつ解除され、7月17日ついに観客を入れての公演を開始。YONEZAWA GYU OFFICEの高橋菜穂子さんは「食と演劇をつなぐ、まちの新しい文化として、今後も長く続けていきたい」と熱を込めます。

役者(右)に口紅をさす高橋さん(左)▶
仙臺まちなかシアターの企画立案から、出演者への依頼、台本の校正まで何でもこなしています。



YONEZAWA GYU OFFICE

仙臺まちなかシアターの最新の公演情報をチェック!

Facebook: @matinakatheater

HPはこちら▼



活動に+(プラス)したくなる事例やお役立ち情報をご紹介します。

サポートを必要としている子どもたちに届け！ オンライン学習

学生ボランティア団体manacoは、宮城県、仙台市の小・中学生を対象に週1～2日、無料で学習のサポートをしています。学習には、ZoomやSkypeなどのオンラインビデオ通話を駆使。宮城教育大学などの学生9人が、「自分たちの学びを活かして社会に何かしたい」と、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校で学習に不安があったり、ストレスを抱えていたりする子どもたちに向けて活動しています。大切にしていることは、勉強だけでなく、趣味や学校生活の話なども気軽にできる場所にあること。メンバーは「オンライン活動は感染予防目的でしたが、不登校や慣れない環境が苦手な子どもたちも家から安心して参加できるよう」とオンラインの可能性を話します。



Mail: manaco0501@gmail.com

Twitter: @manaco0501



サポセン蔵書から活動に役立つ書籍をご紹介します

common cafe (コモンカフェ) 人と人が出会う場の作り方

大阪にある「common cafe」は日替わり店主により運営されるカフェ・バーです。音楽ライブ、演劇、展示会なども開催できます。店を持ちたい人、表現の場が欲しい人、店に来た人たちが出会うことで、自然な会話から新しいアイデアやエネルギーが生まれています。本書は店を立ち上げた著者の目線から、開店までの経緯や運営方法を紹介します。「common」=「共通」の価値観を共有できる場を作る重要性を学ぶことができます。

著者: 山納 洋

発行所: 株式会社西日本出版社



つながる つなげる サポセン

仙台市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。
「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 9月9日(水)、23日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

[ツイッター] @SCSC4CA

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



「ばれっと」は、市民ライターと協働で制作しています。
ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行 仙台市民活動サポートセンター

(指定管理者: 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2020年9月1日

デザイン PEACE Inc.

「ばれっと」紙面についてのお知らせ

新型コロナウイルスの影響により、社会情勢の変化が著しい中、市民活動の現場で起こっている状況に柔軟に対応するため、2020年7月号より紙面構成を変更しています。引き続きご愛読よろしくお祈りします。